

# 「生活者としての外国人」に向けた 日本語教育の体制作り

－ 可児市多文化人材育成推進事業 －

平成22年度地域日本語教育コーディネーター研修修了  
特定非営利活動法人可児市国際交流協会 事務局長

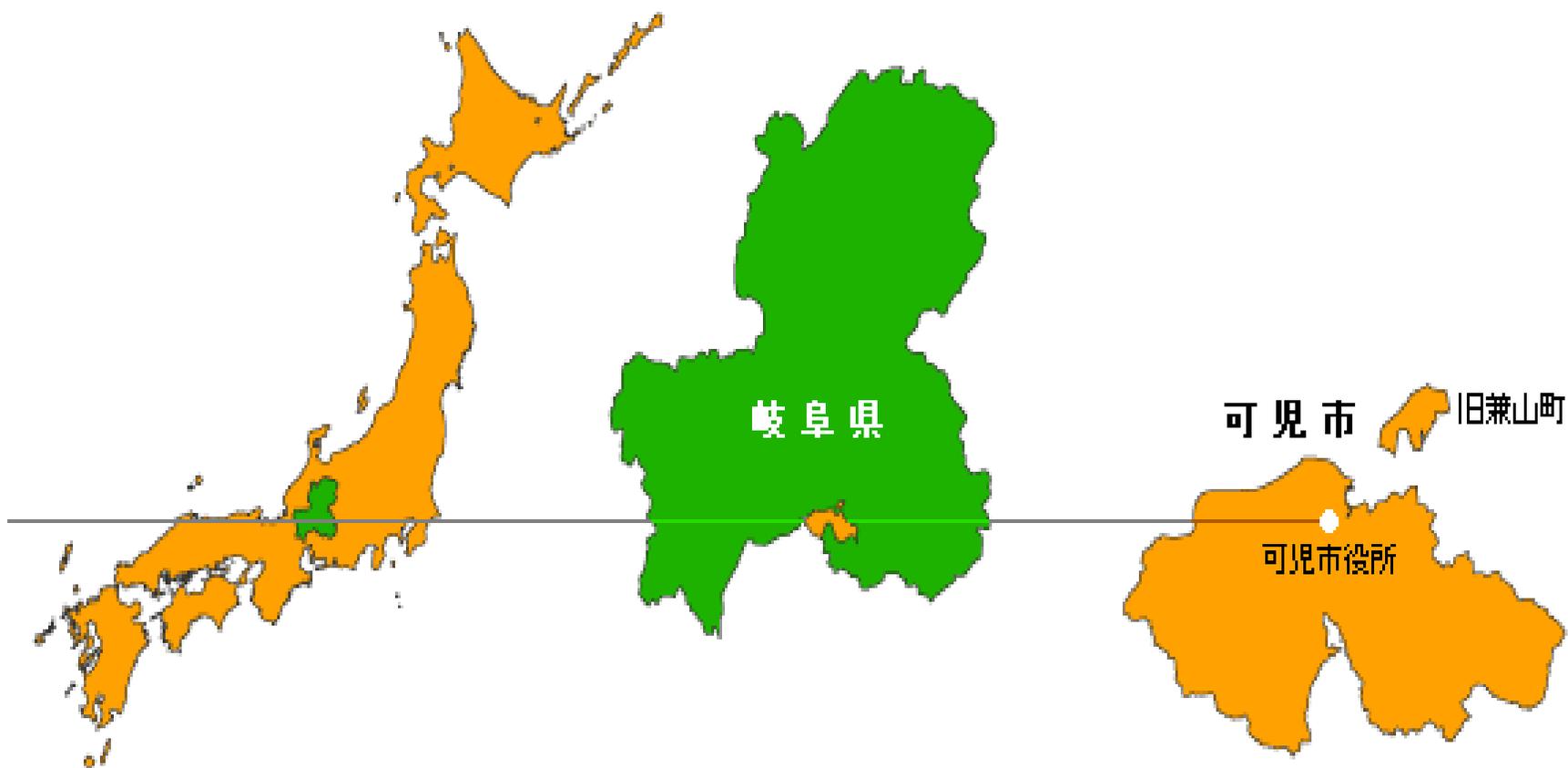
各務 眞弓(かかむまゆみ)

# はじめに

- 2010年日本語教室を変えようと悩んでいた
  - 文化庁の日本語コーディネーター研修に参加
  - 日本語教室を地域日本語教室に切り替えた
- 
- ①地域の現状と団体紹介
  - ②自己紹介
  - ③新たな取組みとして、可児市の日本語教育の体制づくり
  - ④課題解決への取組みと今後

# 可児市の位置

■可児市の位置





## 可児市の現状

- 可児市総人口……101, 535人
- 外国人居住者数……5, 803人
- 人口比率 5.7%



ブラジル人……2, 968人



- フィリピン人……1, 950人



- 中国人……402人

(2012・7・1)

うちなる国際化を目指して

2000年市民によって可児市国際交流協会設立



# 可児市国際交流協会のあゆみ

- 1999年国際交流協会準備会発足
- 2000年可児市国際交流協会設  
市民による任意団体として設立  
運営はすべてボランティアで
- 2003年～子どもの教育環境調査
- 2008年1月NPO法人認証
- 2008年4月可児市多文化共生センターフレビア  
の指定管理者として運営管理

# 多文化共生にかかわる事業

1. **日本語学習支援活動**
2. **多文化共生交流支援活動**
3. **国際理解・語学学習活動**
4. **情報交流・発信活動**

# 2008年 可児市多文化共生センターオープン



# 可児市多文化共生センターの機能

情報提供

日本語学習支援

外国人相談

交流の場

# フレビアを拠点に活動がひろがる

- **日本語学習支援、指導者養成**
- **外国人の生活支援**  
(相談窓口や情報提供)
- **コミュニティー団体の活動支援**
- **外国人の子どもの就学および学習支援**

# 自己紹介

- 協会ボランティアスタッフ
- 日本語ボランティア、ブラジル人学校での支援など(2000～)
- 多文化共生託児所の活動(2003～2008)
- 可児市多文化共生センター指定管理者の事務局スタッフとして常勤(2008～)
- NPO法人可児市国際交流協会事務局長として、事業の統括(2010～)

# 地域における日本語教室の現状

- 派遣会社の管理と行政の言語対応
  - 在日年数の長期化と定住化
  - 生活言語の習得
- 
- 日本語教室の学習者の変化
  - 継続の難しさ

# 新たな日本語支援

## 「生活者としての外国人」の位置づけ

・ 仕事や育児をし、余暇を楽しむ  
普通の生活者

◆ ビジネスマナー

◆ 子育てママの日本語

◆ 履歴書に書ける日本語能力

# 企業や関連団体との連携

- 多文化人材育成推進委員会
- 企業との連携  
地元の中小企業の経営者の方々へのヒアリング

講師としてお招きし、日本語支援者へ  
取り込む

# 多文化演劇ユニット「MICHU」



- 演劇プロジェクトから生まれた多文化なユニット
- 自立をめざし、防災ワークショップのファシリテーターに

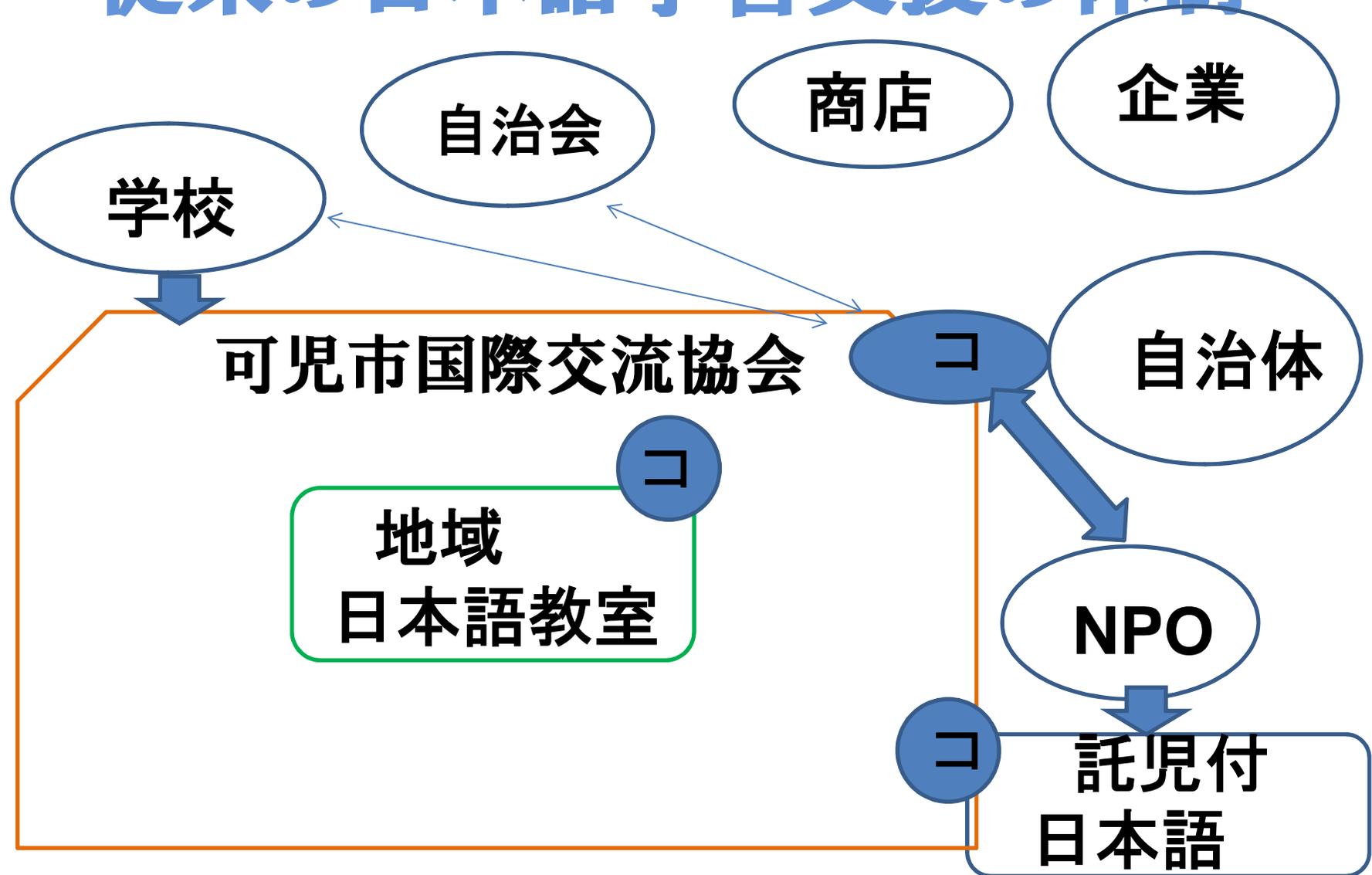


# 多文化共生育児サークル

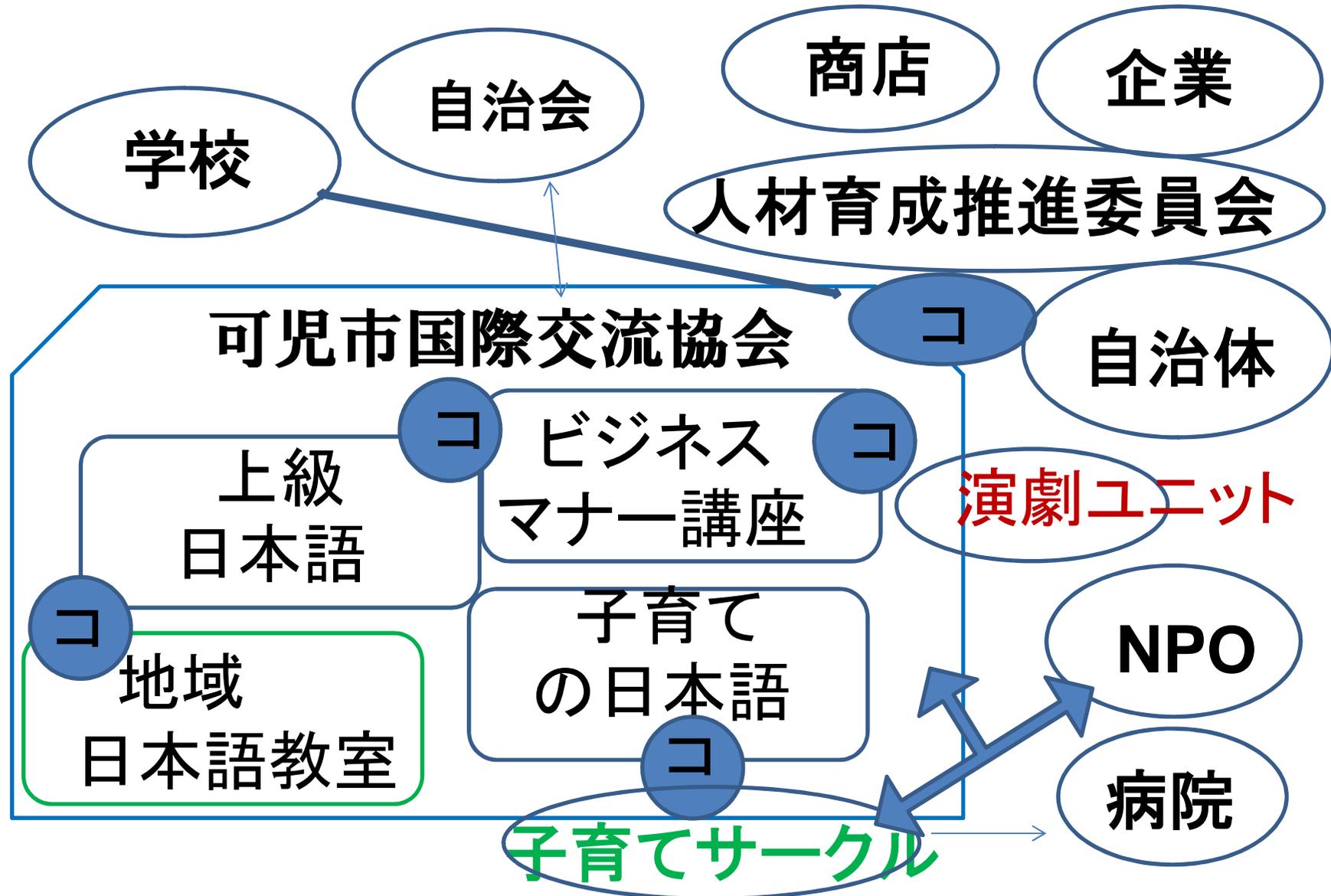


子育てから多文化共生を始めよう  
国籍を超えて出産や育児を楽しもうと結成  
市のまちづくり助成金で、日本語教室や英語  
教室を開催

# 従来の日本語学習支援の体制



# 日本語学習支援の体制づくり



# 地域日本語コーディネーター

- 日本語支援事業全体の統括をすること
- 企業、関連団体、支援者など協力者を増やしていくこと
- それぞれの取り組みのコーディネーターが機能できるように支えること
- 協会の体制もふくめ安定した活動となるよう連携を深めていくこと